



令和3年度 3月号 令和4年3月1日

上原だより

渋谷区立上原小学校
校長 河口 尚志

<https://shibuya.schoolweb.ne.jp/ueharae>

有終の美

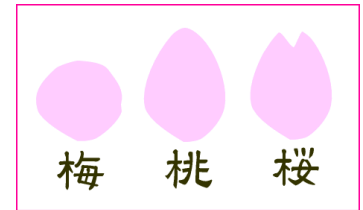
校長 河口 尚志

3月に入りました。

この時期には、梅、桃、桜が示し合わせたように順番に花を咲かせ、春の景色を豊かに彩ってくれます。

この3つの花の見分けは、時期以外ではなかなか難しいものです。よく言われるのは、右のような花びら1枚の形です。

花びら以外にも花のつき方や広がり方でその違いが分かります。



さて、3月3日は桃の節句です。春の季語である桃の花は、生命力の象徴となる存在として、ひな祭りに飾られる習慣ができたようです。その桃の花のように、この時期には子供たちの成長する姿や生命のすばらしさを確認することができます。

3月は今年度のすべてにおけるまとめの時期です。大人も含めて、この年度の「有終の美」を飾ることが求められます。

改めて「有終の美」の意味を確認すると、

- ・物事をやり通し、最後まで仕上げる。結果が立派であること。終わりがとてもきれいであること。
- ・与えられたことを最後までしっかりとやり、立派に技能や価値などを高めること。
- ・物事をはじめるのは簡単だけど、最後まで美しくやり通すのはものすごく難しい。何かをやりぬくことの大切さをこの言葉は説いている。とあります。

本校の子供たちは、その言葉通り、コロナ禍ではあっても、日々の学習や生活において最後までしっかりと努力をし、多くの成果をあげることができました。学習においては、計算の技能や考え方、漢字学習、様々な表現力など、生活においては、話の聞き方、集団の団結力や所属意識など、学年や学級の実態に合わせて大きく成長できた1年でした。

先日の移杖式で、主指揮の児童のあいさつの中に、「コロナ禍であってもすごい！と思われるようにがんばってきました。」とありました。子供たちがそんな意識をもって、日々様々なことに取り組んできたことが分かり、うれしくなりました。



このように、残りの日々で、最後まで多くの成果を表し、有終の美を飾ってほしいと願います。

保護者や地域の皆様におかれましては、1年間本校の教育活動にご理解ご協力をいただきまして本当にありがとうございました。

来年度も、さらによりよい上原小学校となりますよう、引き続きのご支援をよろしくお願い申し上げます。